

耕畜連携の推進による飼料の国産化

- 飼肥料の高い海外依存からの脱却、農地の維持・農業従事者の確保等の課題に対応し、畜産物の持続的な生産を実現するため、国産飼料の安定的な生産・供給体制の確立、粗放的管理が可能な飼料作物の導入を通じた農地の有効利用・改善等が必要
- このため、地域において、耕種農家の生産した国産飼料を畜産農家が利用し、家畜排せつ物に由来する堆肥を農地に還元する取組、すなわち「耕畜連携」を推進して、持続的な国産飼料作物の生産・利用の拡大が不可欠

耕畜連携イメージ

耕種農家側



水田作物

転換



飼料作物
(飼料用とうもろこし、牧草等)

飼料の供給

堆肥の供給



畜産農家側

輸入飼料

脱却

国産飼料
の利用

耕畜連携の推進において必要となる取組

- 飼料作物生産のために必要な農地の確保（輪作・裏作での飼料作物の導入、畑地化後の飼料作物の本作化、耕作放棄地の活用）
- 効率的かつ安定的な飼料生産体制の構築・飼料作物の品質確保（専用機械・人員の確保、技術の習得等）
- 生産した飼料作物の持続的な取引先（耕種農家・畜産農家・飼料製造販売業者）の確保（長期の利用・供給契約の確保、マッチングの推進）
- 家畜排せつ物の適切な堆肥化（堆肥の高品質化・ペレット化）
- 堆肥の有効かつ適切な利用（施肥技術の普及）

（主な事業）

【R6年度補正】国産飼料生産・利用拡大緊急対策
（飼料供給連携体制整備事業のうち連携型）

長期の利用供給契約を締結した上で、耕種農家が品質表示を行い、畜産農家が給与情報等を提供する取組を支援（基準年からの拡大分数量払い）。

〔畜産農家：青刈りとうもろこし、ソルゴー、牧草：7,800円/t以内 子実用とうもろこし：12,000円/t以内〕
〔耕種農家：青刈りとうもろこし、ソルゴー、牧草：8,300円/t以内 子実用とうもろこし：12,200円/t以内〕

耕種農家と畜産農家が連携して、省力的な国産飼料の生産・利用を拡大するための仕組みづくりが必要。